

臓器模型・文化財3D造形

電気器具製造のアピール(青森県平川市)は3D(3次元)プリンターで人体臓器の模型や文化財の複製(レプリカ)などを作る事業を始めた。複雑な形状を効率的に製作できる点を大学医学部や行政機関に売り込む。主力の電子部品加工は景気変動の影響を受けやすい。東北で3D造形を手掛ける企業は少なく、安定的な収益が得られるとみて参入を決めた。

電気器具のアピール

高性能機、硬軟も自在



万円で導入したイスラエル製プリンターは3種類の樹脂を使い約50色を表現でき、硬いものからゴムのように弾力性があるものまで硬軟も柔軟に造形できる最上級機種。この機能を生かして複雑な構造の臓器を可視化した模型を作る。

腫瘍に色を付けるなど複雑な人体臓器を可視化できる

者説明や術前訓練、医学教育用として腫瘍部分を着色した実物大の膀胱(ぼうこう)がんや腎臓がんなどの模型を作った。また岩手県立大学の研究室などと、つぼの位置に突起を付けて目の不自由な人も練習できる鍼灸(しんきゅう)用の手足模型も作った。文化財の複製も重要ターゲットだ。アピールによると、博物館などにある複製は職人の手作りで精密な図面もないことが多く、劣化すると再生が難しい。デジタルデータ化して3Dプリンターで造形すれば何度も簡単に再生でき、費用も10分の1以下にできるという。青森県などは三内丸山遺跡(青森市)など東北と北海道南部の縄文遺跡群の世界遺産登録を目指しており、登録に向けた資料整理などに3D造形を採用するよう関係機関に働きかける。



同社は3台の3Dプリンターを導入し、技術者や営業担当者など約10人から成る3D造形専門チームを編成した。技術者をプリンターメーカーに派遣して、デジタルデータ収集・処理など3D造形に必要な技術を習得した。特に注力するのが医療用の臓器模型だ。約6千

原油安で上方修正

東北電、今期純利益15%増

東北電力は28日、2016年3月期の連結純利益が前期比15%増の880億円になる見通しだと発表した。15年10月に発表した前回予想から130億円上方修正した。原油価格が急激に下落した影響で、前期と比べ燃料費を約600億円抑えられると判断した。売上高の見通しは前期比5%減(2016年1月1日～3月31日)を想定し、15年10月に発表した前回予想から300億円減らした。28日に会見した原田宏哉社長は通期予想の上方修正について「(燃料の価格変動を反映させる)燃料費調整制度による一時的なもので、収益基盤

し、引き続きコスト削減を進める認識を示した。15年4～12月期の連結決算では純利益が前年同期比12%増の791億円となった。燃料費を同460億円抑制できた。経常利益は同23%増の1178億円だった。東北電力は28日、21年3月期までに連結自己資本比率を25%以上とする目標を掲げた。15年4～12月期時点の単独の自己資本比率は14.7%となり「19年3月期までに単

新館、3月18日に

駅ビル「エスパル仙台」通

東北電力は28日、2016年3月期の連結純利益が前期比15%増の880億円になる見通しだと発表した。